

# 縣陵

KENRYO

Matsumoto Agatagaoka Senior High School

130



- 02 役員あいさつ
- 04 PTA 総会
- 05 学年 PTA
- 06 今年の縣陵 PTA
- 07 専門委員会より
- 08 学年づくり
- 10 「機械に使われないためにも」進路指導主事 石田 公里
- 11 「相手の目を見て」生活指導主事 井出 敦
- 12 部活報告
- 13 活躍する縣陵生
- 14 私の青春時代 Vol.9 「楽しかった日々」伊藤 道興
- 15 縣陵百景①「小体育館・武道場」の巻き
- 16 縣陵百景②「野球部招待試合」の巻き



# 2016年度PTA活動について

PTA 会長 忠地 祐一



本年度PTA会長を務めることになりました忠地と申します。平素は本校PTA活動にご理解ご協力を賜り心より感謝申し上げます。伝統ある本校を更に発展させることができるよう、微力ではありますが役員の方々とともに精一杯努めていきたいと思っております。宜しく願い致します。

昨年度は伝統事業を残しつつ、今までのPTA活動を少し見直す1年でした。あまりニーズのない事業については取りやめたり、逆に生徒の安全に帰する事業を取り入れたりしました。また、生徒の学習環境について学校と一体となって推し進め、PTAの予算を使わせていただいで学習に集中できる環境を整備しました。その一方で強歩大会や、本校OBで現役大学生との交流研修事業は継続すると共に、PTA会報についてはカラー誌に変更し写真を多く使うなど、PTA事業のみならず学校の様子などもわかりやすく伝えるように変革を行いました。

本校のPTA活動事業は他校と比較してもそれほど多くはないというのが実態だと思います。それぞれの学校の歴史や文化、あるいは地域性もありますが、本当に多くのPTA事業を実施している

学校もあり、保護者の方々の熱心さが伝わってきます。特に長野県外の学校は、やはり私たちの地域と違ったPTA文化があるように感じられます。そういう活発なPTA活動への取り組みを参考にしつつも、本校では生徒の主体性や自主性、精神的な自立心を伸ばしていくことを校風としていますので、PTAが学校活動の前面にでるのではなく、生徒や学校の事業を裏で支える、見守るというようなPTAが良いのではないかと考えております。

その中で本年度もこれからのPTA活動について、保護者の皆さんに学校及び生徒の普段の学校生活を知ってもらったり、様々な分野で活躍している本校同窓生を活用したりと、本校にとって有益なPTA事業を検討していきたいと思っております。1年間お世話になりますが宜しく願い致します。

## 万里一空

松本県ヶ丘高校はご存知の通り、縣陵三大精神とは別に、文武両道の精神を掲げ、名実ともに成果を上げている学校であります。我が校には生徒一人ひとりの自立性や積極性、協調性を学ぶ上で貴重な経験や自己のスキルを練磨する機会に溢れている恵まれた環境があります。これは一つの自慢でもあります。そんな中、生徒会にもこのようなことは同じように通ずるものだと至極当然のことと思うのですが、そんな思いとは裏腹に、やはり生徒会活動に対する意識の低さや隔絶感を感じています。私たち生徒会役員は、その溝を少しでも埋めながら、

生徒会長  
宮原 翔



さらによりよくしていくためにはどうしたら良いのか、ということを常に考えながら行動するように意識しています。残り少ない任期ではありますが、全校生徒と協力しながら、目的を見失わずに後悔のないような活動をしていきたいです。

## 成長に合わせて

このたびPTA副会長を務めさせていただくことになりました。どうぞよろしく願い致します。PTAも子どもの成長に合わせて、その立ち位置が変わってくと感じています。高校生ともなれば自分の考え方を主張し、一人の人間として向き合ってくるようになり、黙っていても成長してくれるだろうと放任主義になりがちです。また、将来の自立に向けて、保護者への依存も減ってほしいと願うところです。そうはいつでも高校生という繊細で多感な時期であり、まだまだ陰ながら支えてあげないといけません。PTAとしても子どもたちの健全な

# 政治に関心を持てる生徒に

学校長 永原 経明



保護者の皆さま方には、日頃より、学校に深いご理解とご協力をいただきましてありがとうございます。

さて、今回の会報が発行される頃は、7月の参議院選挙の後であります。ご承知のように、この選挙は約70年ぶりの選挙法の改正により、18歳以上の者に選挙権が与えられて行われた最初の選挙でした。歴史的に意味をもつ選挙であったと言えます。選挙後には、新たに選挙権を付与された18歳、19歳の若者たちの投票率等が話題になっていることでしょう。本校も授業や生徒にプリントを配布するなどして、生徒の意識の向上に取り組んできました。選挙権が付与された本校3年生のどの程度が投票所に足を運んだのかは気になるところです。

国内の様々な選挙の投票率をみると20代の若者は、他の世代と比較して特に投票率が低く、また、他国の同年代の若者たちと比較しても、やはり下位の方です。

なぜ、日本の若者は政治的な意識が低いのか。諸説ありますが、長年の高校生の政治活動の禁止や政治的争点について扱うことの慎重さ等々により、政治について距離をとる雰囲気が出てしまったのかもしれませんが。今回の法改正に伴い国の方針も大きく見直されました。

いずれにせよ、これからの社会を担い、様々な分野での活躍が期待される若者たちです。政治に関心がない、知識もないというのではなく、現実の社会と向き合い、社会の在り方を考え、政治的自分の意見を持って欲しいと思います。

今年の3月、本校生徒会が呼びかけ人となり、中信地区の高校18校の生徒会の執行部に集ってもらい『第1回生徒会交流会』が行われました。数10名の生徒が集まる中、本校生徒が会を取り仕切り、非常に有意義な交流会となりました。また、同じく生徒会の発案で、本校の在り方について学校、保護者、生徒、地域の

方々と意見交換をするということも行われました。これは、『縣陵ステップ』と名付けられ、2回実施されました。(1回目は『応援団の在り方』、2回目は『県陵生の今後の姿』について)活発な議論となりました。生徒たちの前向きな姿勢、考え方の確かさを非常に頼もしく思いました。

このように、自分の生活している身近な社会の在り方に関心を持ち、自分たちから働きかけるという姿勢は、政治的意識の高まりにつながるものです。

生徒の可能性を様々な面で耕していくことが学校の使命です。政治的意識の醸成は、21世紀に逞しく生きていく上で欠くことのできない力の一つであると考えております。

PTA副会長  
井口 寿彦

成長のため、役員の皆様や保護者、先生方のご意見やご要望を伺いながら頑張りたいと思います。



## 私にとってのPTA

「高等学校のPTA」この言葉を考えた時に、初めに頭をよぎったのは、大げさに言うと「子供を通して、親がもう一度高校生活をやり直す」といような感覚でした。

PTAの目的の第一義は、勿論「生徒の健全な成長を図る」事なのですが、「会員（保護者）の学びと成長」も目的のひとつであるようです。

そう考えると、私が感じた事も満更間違っていないのかなと思います。

言葉は悪いですが「やらされ仕事」では無く、「自らも学び、楽しむ」といった積極的な姿勢で取り組んで行きたいと思

います。

皆様方のご協力、宜しくお願い申し上げます。



PTA副会長  
竹内 公人

～平成28年度PTA～ 主体性・自主性・自立心

# 祈りを込めて見守る一年

平成28年度PTA総会が5月21日に、本校大体育館で開催されました。総会に先立ちアトラクションとして書道部による書道パフォーマンスが披露されました。

軽快な音楽に合わせて「おおらか」で「のびのび」と演技を披露。部員が入れ替わりながら作品を仕上げ、体育館の真ん中に掲げました。文字の大きさや配色に工夫がされたタテ5m、ヨコ6mもある大きな作品の迫力に、会場に集まった保護者の皆さんから大きな拍手が送られました。

今年も総会におおぜいの会員の皆さんが参加してくださいました。

総会ではまず、野村PTA会長と永原校長が挨拶。野村会長は「PTA会員が無理することなく楽しんで参加し、結果として支援につながるのがよい姿」とし、そのようなPTA活動に「一歩近づけたと思う」と昨年度を振り返った上で、「親は子より一歩離れ、親は親で楽しんでいる姿を示すことが“人生は素晴らしい”と子どもた



ちに示すことになる」と述べました。永原校長は「子供たちの成長のために保護者と学校が連携をとってゆく」と述べるとともに校舎の改修について報告し、「秋から始まる更衣室の工事は、保護者からの要望があったもので、さらに保護者とのコミュニケーションを大事にしてゆきたい」と述べました。

第1部の議事では①事業報告・会則改正提案②決算報告③改正監査報告が承認されました。新年度役員全員が承

認されました。忠地新会長の抱負に続き、新年度事業計画、予算の審議、承認されました。議事の最後に野村会長へ、3年間に亘る本校PTA活動への貢献に対する感謝状と記念品が贈呈されました。

第2部では、生活指導、進路指導よりお話をいただきました。

総会終了後、PTA懇親会及び歓送迎会が松本東急REIホテルで行われました。



## 1 学年 PTA

# 縣陵史上初の試み 海外修学旅行は台湾へ！

1 学年PTAでは来年度、海外修学旅行を実施することになった経緯を担当の先生よりお話ししていただきました。グローバル教育が求められる現在、普段の授業で学んだ知識を海外で実際に運用し、そこで得た体験をもとにグローバルな視野を養うこと。さらにその後の学校生活や卒業の進路に生かすというのが主な目的です。

具体的には次の2点が主な目的です。

- ①訪問国の文化施設・歴史的施設を訪問し、その国の文化・歴史への理解を深め、異文化理解の契機とする。
- ②高校生同志の交流を通じて語学に磨きをかけるとともに、異文化の中で自らを表

現するコミュニケーション能力をつける。

4月に普通科の家庭に[海外修学旅行に関するアンケート]の協力を依頼した結果、「実施してほしい・できれば実施してほしい」が、全体の76%。予算や日程を考慮した上で国は台湾が多数。内容は「観光名所巡り・高校生同志の交流を希望する」という意見が多かったようです。

松本市内4校ではまだ海外修学旅行を実施している高校はなく、ここで縣陵初の試みで、今の時代が求められている課題を審議し、学校側でもこれから情報収集や勉強会をしていく方針だということをお話を聞きました。



この海外修学旅行を通じて国際感覚を養い、視野を広げることで、新たな発見や成長できる機会となれば良いと思います。そして学んできた知識を日々の生活に生かし、充実した豊かな高校生活が送れるよう、我々保護者もサポートしていきたいと思いました。

## 2 学年 PTA

# 進学のお金講座

新役員の紹介のあと、学年全体・学年進路指導・生徒指導からお話がありました。引き続き、PTA 講演会が開催されました。受験生支援センター提携ファイナンシャルプランナーの吉岡豊司先生から「進学のお金講座～教育費の現状とその対策について～」と題して、親にとっては切実な進学とお金の話を伺いました。

### 1 教育費の現状として

- (1) 学部・学科、分野、学校によって費用は大きく異なるため、「学校比較・費用」は、親が主体となってチェックし、親子で「進学」を考える必要がある。
- (2) 大学・短大・専門学校ともに入学までに約130万、さらに入学後毎年授業料・交通費等に約106万円。生活費・仕送りを含めるとゆうに200万円を超える。

### 2 経済的理由で進学を諦めないために

- (1) 奨学金 日本学生支援機構、地方公共団体、民間、大学・短大・専門学校など様々な奨学金があり、大学生の40%利用しているが、返済額など考慮する必要がある。
- (2) 教育ローン(入学前のお金は、奨学金では対応できない) やはり、返金額など考慮すべき点は多い。

2年後には子どもたちは何らかの岐路に立ちます。「お金がない」という理由で子どもの夢を絶ちきらないように親の情報収集も大切だと実感しました。

続いて、その場で学級PTAが開催されました。クラス替え後初めての保護者、担任の顔合わせとなりました。個別での懇談も各クラスおそくまで行われたようです。

## 3 学年 PTA

# 進路講演会

“最近の大学入試と子どもの進路実現に向けて”と題して、信学会駿台提携信州予備学校の唐澤和宏先生による講演会が行われました。

### ●2016年度の入試結果分析

センター試験の分析、国公立大結果分析、信州大学結果分析や試験科目の変更点等の説明、私立大学結果分析

### ●様々な入試方法の説明

入試スケジュール、センター試験や国公立大二次試験の詳細

私立大学の入試方法の詳細な説明、推薦入試、AO入試の説明

### ●大学生生活アレコレ

受験・入学時の費用の比較、奨学金について

### ●進路実現に必要な3つの力

基礎力をつけること 予習→授業→復習のサイクルを守ることが重要

習慣力をつけること 平日の学習時間は学年の数+1時間を目標に毎日学習することが重要

全力で取り組むこと 部活や生徒会活動等、何にでも真剣に取り組むことで経験値が上がる

### ●子どもとどう接するか

まずは子供の話を聞いてあげる、時には子供の背中を押す、すぐに結果を求めない、起床・就寝時間・自室の整理整頓は守らせる

私立大学の入試方法の詳細や、大学進学にあたってかかる費用の詳細、子供との接し方等、3年生の保護者として理解しておかなくてはならない項目や心構えについて、大変理解を深めることができた講演会でした。

# 平成 28 年度 PTA 年間スケジュール



4月	6日 入学式
5月	12日 第1回 理事会 評議員会
	21日 PTA総会 進路講演会 27日 中信地区高等学校PTA連合会総会
6月	9日 長野県高等学校PTA連合会総会 (長野市)
	25・26日 縣陵祭 (一般公開)
7月	8~9日 北信越高等学校PTA連合会研究大会
	22日 PTA会報発行 130号 地区交流会~11月上旬
8月	24~26日 全国高等学校PTA連合会研究大会 (千葉県)
9月	6日 合唱コンクール
	10日 3学年PTA
10月	4日 芸術鑑賞
	14日 強歩大会 中旬『教育条件整備』に関する署名運動
11月	12日 PTA研修旅行 (中央大学視察)
2月	16日 第2回 理事会 評議員会
	下旬 PTA会報 131号
3月	1日 卒業式

# 総務委員会のゴールデnrール

総務委員会 委員長 倉本 珠弥

総務委員会は、強歩大会の開催のサポートをする仕事を中心です。そのために先生方、PTA役員の方々をはじめ、総務委員会の皆さん、多くの保護者のボランティアの皆さんにお世話になります。これはまさに「共通の目的をもった協力集団の結成」で「自分の脳力以上の成果をもたらす」というナポレオンヒルの「成功の哲学」のゴールデnrールのひとつです。私は総務委員長という肩書で働かせて頂いているだけで、実際は皆さんの力で動いていくものだと思っています。どうか、よろしくお祈いします。



# 名称かわりました！！

研修交流委員会 委員長 本間 美穂

今年度から「研修交流委員会」と改称になりました。活動はもちろん地区PTAの開催協力とPTA研修旅行【11月12日(土)中央大学多摩キャンパス】の企画運営です。生徒と保護者が一緒に参加できる研修旅行、そして卒業生の方々の有意義なお話も聞くことができ、受験に向けての参考になることでしょう。

実は、私も2年前に研修旅行に参加して大学のキャンパスを巡り、学食でのランチと卒業生との懇談を体験しております。今時の受験に関する知識のなかった私には、大変有意義でちょっと楽しい研修旅行でした。

今年度も皆さまのお役に立てるよう企画していきたいと思ひます。ぜひ皆さまのご参加をお待ちしております。



# 会報づくりを通じて思うこと

広報委員長 金子 かおる

娘の持ち帰るPTA会報が結構ページ数も多くてカラーだし、こんな感じでしっかりと作るのは大変だろうな、などと気楽な思ひでいたのが、このたび委員長という立場で関わることになるとは全く予想外のことでした。

今現在、内容や担当の打ち合わせを経て、それぞれ委員の方々にも原稿書きや取材に快く協力していただけて、きっとよいものになる、よいものにしよう、という前向きな思ひで携わることができることを本当にありがたいことと思ひています。担当の池上先生、委員の皆さんのおかげです。

広報委員長としては、是非隅々まで読んでいただき、そして学校やPTAの様子に関心を持っただけなら嬉しいな、と思ひている次第です。

どうぞよろしくお祈いいたします。



# いよいよ、だね。

3学年主任 所 省三



一部を残し、殆どの部活動ではすでに後輩にバトンを渡した。高校生活最後の縣陵祭も立派に成し遂げ、生徒会の引継ぎも間もなくのこと。夏休み後には、センター出願、AO・推薦受験、そして特編授業と、「受験の渦」に飲み込まれていく。

4月の学年集会で新3年生を前に話したこと、「受験は団体戦。2月の学年交流会で見せた見事な団結力を来る受験に余すところなく活かしてほしい。今から一人一人にできることは個人技を高めること。苦しくても絶対に受験から逃げない。受験は自分を成長させる絶好の機会なのだ。」

学年集会からすでに3か月以上経った。来春のセンター試験まで大凡180日。何としてもこの夏休みで各自の受験生活を軌道に乗せよう。そのために利用できるものは何でも利用する。試せるも

のは何でも試してみる。その一つとして、今夏も黒姫高原で行われる学習合宿を積極的に活用してほしい。

「再任用」3年目の私には、もうこの先のクラス・学年はない。私にとっても「いよいよ」である。この学年集団のゆるぎない団結力と各人の豊かな個人技でそれぞれ納得のいく進路を実現してほしい。

受験生活のポイント。先ず自分に厳しくすること。自分を取り巻く周囲への甘えを捨て去ること。そして、絶対に諦めないこと。

エアコン完備の教室と「陵友館」という恵まれた環境の中で精一杯努力せよ！なりふり構わずがむしゃらに自分の目標に向かって突っ走れ！我慢すべきものは我慢する。通信手段としてのスマホの使用も最小限にする。誰が言ったやら、「スマホスイッチオフ、やる気スイッチオン」である。

大切なのは日々の弛まぬ堅実な実践の積み重ねである。受験に王道なんてない。

## 感謝と応援

3学年会長 春日 康志



いよいよ高校生活最後の年となりました。「部活最後の大会」「県陵祭での最後のステージ」「卒業式の日のHR」…我が子らが共に歩んだ「仲間」「先生方」「母校」に感謝する場面は、3年生の数だけ、それ以上にあることでしょう。そしてそれと同じだけ次の

目標に向けての「切り替え」や「覚悟」もあるはず。そこに向き合うこと「自分で切り開くこと」を応援できる大人でありた

いと考えています。・・・とは言え「自分が高3の親」という事実と直面すると、わかっていても必要以上の焦りを感じてしまいます。先生方のお話や、先輩のお父さんお母さん方の経験談も十分お聞きしたいと思います。

余談ですが、私は申年です。来年の3月「我が子の高校卒業」と「自分の高校卒業から30年」を同時に迎えます。来春のイベントについて旧友と準備を進める中で「『感謝』をキーワードにしたい」そんなことを話しています。

## 感じるままに

2学年主任 巢山 尚人



「光陰矢の如し」。この学年もあっという間に一年が過ぎてしまった。生徒にとってこの一年はどんなものであったか。文武両道は果たせたのだろうか。とく易きに流れたがるのが我々の常。好きなことに時間を取られ、学生の本分である学業を疎かにしてはいないか。

冷静に振り返る必要がある。

「涓滴（けんてき）岩を穿つ」。わずかな水の滴りでも長い間に岩に穴をあけるということから、努力を続けることで大事を成し遂げるという意味。授業間の休み時間や寸暇を惜しんで学習した成果は必ず表れるはず。スマホでゲームはもう卒業しないと。

「立場は人を作る」。これもよく言われること。いい加減なことばか

りしていた者が、それなりの立場を与えられると、責任ある行動をするようになる。この時期、部活動や生徒会活動が3年生から引き継がれ、2年生が中心的な役割を担うことになる。下級生の模範となるべく、日々の行いに責任を持つこと。つまり、文武両道の実践が求められている。

さて、私たち大人はそうした彼らとどう関わっていけばいいのか。前述したとおり私たちもそれぞれの立場を踏まえて接することが大切であり、保護者は保護者として、教職員は教職員として、彼らを信じ、彼らをバックアップすること。このことが彼らの可能性を広げ、彼らの成長へとつながるはず。

家庭と学校が互いに協力する中で、この一年が彼らにとって素晴らしい時間になることを願う。

# 2年生に想う

2学年会長 神戸 順



ついこの間、入学したばかりだと思っていましたが、早いもので後輩ができ、高校生活も2年目を迎えました。皆さんは何を思い、どんなことに夢中になって日々過ごしているのでしょうか。

忙しく充実した毎日を送っている人。変わり映えしない毎日に気力も失せがちになっている人。様々なことに向き合い、チャレンジし、時には思い悩み、自分の思うとおりのまいったり、なかなかそうではな

かったりと……それもこれも今だからできること。

毎年繰り返す季節の移ろいは同じように見えますが、それでも少しずつ違って、それと同じように私たちの日々も同じ日は二度とないのだと思います。

高校生活は、人生のうちでたったの3年間ですが、級友と過ごすかけがえのないこの瞬間を大切に、精一杯過ごしてください。そして、これからの人生、自分の目で見て、考え、歩んでいくことができるように…。皆さんを応援しています。

## 『仕掛け』

1学年主任 桑澤 悟



1年生も入学して早3ヶ月目に入った。新しい友人ができ、応援練習を乗り切り、クラブに加入し、中には選手として大会で活躍し、縣陵での生活がそれぞれ軌道に乗りつつあるこの頃である。現在、1年生は初めての縣陵祭に向け、クラスごと校内装飾の準備や係の仕事で上級

生の指導のもと頑張っている。

さて、私も1学年担任団は3年間を見据え、生徒向けにいくつかの新しい企画を考えている。生徒にとって、何かしらプラスになることを期待して考えた、いわゆる「仕掛け」である。

まず1つめが「スタート合宿」。入学式の翌々日、まだクラスメイトの名前もよくわからない中、学校を離れて一泊の研修を行うというものだ。何だか企業の新人研修みたいだが、狙いは自学自習による学習習慣の確立と仲間づくり。こちらの狙いとしては前者に重きを置き、生徒が自ら課題を見つけ、勉強に取り組む姿勢を養うことにあった。できれば夜遅くまで自習し、分からないところは教えあうことを想定したが、残念ながら施設の学習室の消灯時間が9時であり、生徒たちはクラスごとの部屋に引き上げた後、夜更けまで語り合ったようだ。重きを置いた狙いは外れたが、集団生活から仲間づくりが進み、多くが早くに学校やクラスに馴染んだようである。

2つめは「考査前教室開放」。クラブ活動が休みになる考査前1週間の放課後を活用しようと教室を午後6時まで開放し、自習室とする企画だ。私語は慎み、分からないところは研究室を訪ね教員に質問するルールを設けた。どのクラスも半数近くが残ってテスト勉強をしていた。また、数組だが教室から廊下に出て教えあっている光景を目にし、しめしめと感じた。

3つめは「海外修学旅行」。本校ではすでに英語科において海外語学研修を実施し、グローバルな視野をもった卒業生らが各分野で活躍している。この学年では普通科においても修学旅行の形式で実施し、日数こそ短い海外に目を向け異文化に触れる、また、語学力を見つめ直すよい機会にしたいと考え企画した。来年度の実施に向け、少しずつ動き始めているが、旅行が単なる物見遊山に終わらぬよう、今年度より事前学習の準備を始めた。

他にも思案中だが…。こうした「仕掛け」のいくつかは前例のないもので、それだけに立ち上げには大きな労力を要する。また、「仕掛け」られて実行するのは生徒たちである。生徒にとって、(また、私どもにとっても) 過剰負担にならないように考えている。

「仕掛け」を活かすも活かさないも結局は生徒次第だが、私たちとしては生徒の学習活動のモチベーションを高めたり、進路選択の手助けになることを期待し、生徒が自律し、そして自立できるよう見守っていきたい。

## 日常の中に新しい発見を

1学年会長 熊澤 哲夫



多くの縣陵生が自転車で通学しています。松本の街中を通っていきます。一人ひとりが自転車の運転マナーを守り、交通安全に気を付けて、3年間事故に遭うことがないよう願うばかりです。

縣陵生は、部活に学習に忙しい毎日ですが、せっかく自転車で通うのですから、最短ルートを一直線に進むだけではなく、ちょっと行動範囲を広

げて、たまには大回りしてみたり、スピードを落として周囲を眺めまわしてみたいものです。そうすれば、松本の街中のいろいろな施設やお店が見えてくることでしょう。様々なイベントが行われていることもわかります。季節に応じて風景も変わります。自分の一番好きな場所と季節を探してみるのも楽しいでしょう。

高校卒業後、県外の大学に進学し、就職先も県外となる可能性も決して低いものではないと思います。縣陵生でいる3年間に、松本の街のよいところをいっぱい感じて、覚えていって欲しいものです。

# 機械に使われないためにも

進路指導主事 石田 公里



たまに耳にする話です。「大学へ行くのに、行事等はあまり関係がない」極端な場合は「その時は休んでもよい」といった内容です。また、受験体験談の中に「時間がもったいないから答えを見ながら覚えた」というのがありました。これらは、高校生活や学習内容より「受験の近道」に焦点を当てている点で違いはありません。大人の中にも、成績が伸びない高校生を誘う言葉として用いる方がいます。

どの教科やどの行事にも教育上の目的があり、「経験」として効果が期待できるからこそ存在するわけですが、進路指導を「自立指導」とする立場からも考えてみたいと思います。

最近、囲碁や将棋の世界で人工知能が人間相手に勝利をおさめたことが話題になりました。驚くべきことに、この人工知能は対戦結果から自ら学ぶことができ、経験を新たな知識として取り込むことができるそうです。機械ですから休むことなく学び、その結果、驚異的な速さで強力な「棋士」に育ちます。

駅の切符販売や改札等身近な例をはじめ、社会では人工知能やロボットが活躍する場面が多くなり、かつ急激に広がっています。この現実の中で人に求められるものは何でしょうか。

限られた条件の中では、データとしての知識の量や習得する速さでは機械にはかないません。一方、持っている知識を結び付ける時や、新しい事へ創造的に臨む場面では、機械より「経験豊富な」人の感覚が上をいきます。例えば機械は、大量印刷は得意ですが、絵画を描くことはできません。



受験の近道のみを意識する姿勢は、結果として、知識も含め「経験」を得る機会を自ら放棄することになり、進学目的と矛盾します。また、本人の対応力を狭め、ロボットや人工知能が得意とする、量や速さの土俵に自ら降りていくことにもなります。センター入試等ではロボット並みに正確な解答が求められることは否定しません。ですが、未知を学ぶ姿勢、自ら考える姿勢、そして苦しみながら判断し行動していく姿勢は、ロボットにはできない自立した姿です。人間としての良さを失わないためにも、まずは教科の課題を解く時ぐらい、答えから見るような作業は避けたいものです。



## 同窓会より奨学金のお知らせ

大学進学決定者を対象とする無利子の貸与制度があります。定員は3名で貸与額は年間50万円、返済期間は貸与期間の2倍以内、となっています。募集は来年の2月以降に行い、決定は3月下旬に直接お知らせします。応募方法や詳しい内容は本校同窓会係石田、または同窓会事務局 32-0666 にお問い合わせください。

# 相手の目を見て

生徒指導主事 井出 敦

「生きる力」と聞くと、とかくサバイバル的なことをイメージしがちですが、現代社会における「生きる力」とはどのようなことを指すのでしょうか。

文部科学省

学習指導要領解説・総則より抜粋

**「確かな学力」と「豊かな心」を育成し、「生きる力」をはぐくむ学校教育を目指して**

これからの子どもたちに求められるのは、①知識や技能に加え、自分で課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する力などの「**確かな学力**」や、②他人を思いやる心や感動する心などの「**豊かな人間性**」、③たくましく生きるための「**健康・体力**」などの「生きる力」を身に付けることです。

「ゆとり」でもなく「つめこみ」でもない「生きる力」

～知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指すものであり、「確かな学力」として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視するものである～

学習指導要領では次の通り「知・徳・体のバランスのとれた力」と定義されています。

現代社会が求める人材は、いかなる場面においても主体性（アイデンティティー）をもって行動できる人物であり、このことは大学入試改革やそれに伴う高等学校の授業形態の変化にも現れてきています。「生きる力」はまさしく社会全般に求められている要素であるといえ、そういった人材の育成こそが教育現場に求められているといえます。

今年度の生活指導の目標は「基本的な生活習慣を重視し、心身の健やかな成長の援助を図る。また、責任・礼節をわきまえた人格の形成と自主・自律の精神の涵養に努める」とし、自ら考え自ら行動できる人間を育成することに重きを置いています。

本校の様子を見ていると、①コミュニケーション力、②問題解決力、③主体性の一層の向上が求められるところです。その中でも特に、「コミュニケーション力の低下」については危機感をもたざるを得ない状況となっております。

人と人が関わっていく上で、すなわち生きていく過程においてコミュニケーションはなくてはならない必要条件であることは言うまでもないのですが、昨今、パソコンやスマートフォンに代表されるコミュニケーションツールの進歩にともない、そのつながりはデジタル化される傾向にあります。

スマートフォンに関する調査において次のような結果が出ております。

- 1 高校生のスマートフォン利用率…男女ともに**99.0%**
- 2 平均使用時間…[男子]**3.8時間**、[女子]**5.5時間**
- 3 フィルタリング使用率…[男子]**48.8%**、[女子]**53.0%**
- 4 使用頻度が高いアプリ

[男子]LINE **91.3%**、Twitter **58.3%**、YouTube **58.3%**  
[女子]LINE **92.2%**、Twitter **77.7%**、YouTube **70.9%**

※2015年デジタルアーツ調査:n=206



以上の結果から、ほとんどの高校生がスマートフォンを保有しており、その用途はコミュニケーションアプリが上位を占めています。顔をつき合わせて話すこと自体が少ないばかりか、面と向かって言えないことはメールやLINE、Twitterであれば可能であり、なかにはネット上では人格が変わる者までいるといわれています。ネット上では相手の顔を直接見ているわけではないので、通常のコミュニケーションとは大きく性質が異なるものです。当然のことですが、相手の立場に立ち、思いやりのある行動はネット上でも必要です。自己を理解し、他者との関係や社会との関係を築く上で通常のコミュニケーション力を向上させることが欠かせません。

私たちは毎日の生活の中でどのくらい子どもの目を見て話しているのでしょうか。

今まさにここで子どもたちと向き合い、人と人とのつながりとは何かをお互いの目を見て話し合い、つながっていく必要があると感じています。



# 長野県総合体育大会結果

5月下旬から6月上旬にかけて、県総体が行われました。

中信を勝ち抜き、強豪校との対戦に多くの縣陵生が臨みました。結果をお知らせします。

紙面の都合上、陸上・水泳は上位入賞者のみ掲載させていただきます。

## 男子バレーボール

1回戦	対 伊那弥生ヶ丘 2-0
2回戦	対 長野日大 0-2

## 女子バレーボール

1回戦	対 長野日大 0-2
-----	------------

## 男子バスケットボール

1回戦	対 上田東 89-91
-----	-------------

## 女子バスケットボール

1回戦	対 東海大諏訪 35-137
-----	----------------

## 男子硬式テニス

団体1回戦	対 上田西 1-2
	和田将太(3D)
個人1回戦	齊木純平(3F)
	対 須坂 2-6

## 女子硬式テニス

	猿田穂香(3D)
個人1回戦	黒崎楓子(3E)
	対 諏訪清陵 2-6

## 男子ソフトテニス

団体1回戦	対 上田東 1-2
-------	-----------

## 女子ソフトテニス

団体1回戦	対 長野俊英 0-3
	村田美鈴(3A)
個人1回戦	今村美結(2I)
	対 野沢北 2-4

## バドミントン

男子団体1回戦	対 長野東 3-0
2回戦	対 赤穂 0-3
男子シングルス	片平泰雅(3H)
1回戦	対 岡谷東 2-1
2回戦	対 長野商業 0-2
女子団体1回戦	対 東海大諏訪 3-2
2回戦	対 長野商業 1-3
女子ダブルス	矢口実奈(3E)
	忠地梓生(3F)
1回戦	対 文化学園長野 0-2
女子シングルス	矢口実奈(3E)
1回戦	対 飯田女子 2-0
2回戦	対 長野商業 2-0
準決勝	対 蘇南 1-2

## 卓球

男子団体	1回戦 対 上田東 3-0	
	2回戦 対 長野商業 1-3	
男子ダブルス	岡沢賢也・井ノ口雅幸	5位→北信越大会へ
男子シングルス	岡沢賢也(3E)、井ノ口雅幸(1B)	ベスト32
女子団体	1回戦 対 下伊那農業 3-1	
	2回戦 対 長野商業 3-2	
	3回戦 対 小諸商業 3-0	
決勝リーグ	対 須坂創成 0-3、対 松商 1-3、対 飯田女子 2-3	
女子ダブルス	青木多恵子(3G)、中嶋明日香(3C)	3位→北信越大会へ
	胡桃奈歩(2I)、山田奈々(1A)	ベスト32
女子シングルス	青木多恵子(3G)	ベスト16
	中嶋明日香(3B) 胡桃奈歩(2I)	ベスト32

## 陸上

走り幅跳	奥原大輝(3D)	7位
三段跳	奥原大輝(3D)	5位
やり投	高波舞(3D)	5位
110mH	小松太一(3E)	8位
八種競技	草間拓海(3F)	11位
ハンマー投げ	町田みさ(2C)	6位
走り幅跳び	森本千隼(2F)	優勝
三段跳	森本千隼(2F)	優勝
棒高跳	進藤綾音(2G)	4位
走高跳	塩原美里(1F)	5位

## サッカー

1回戦	対 東海大諏訪 1-2
-----	-------------

## 山岳

男子	準優勝→北信越大会
女子	優勝→インターハイ

## 空手道

女子団体1回戦	対 飯田 0-4
男子団体1回戦	対 飯田OIDE長姫 2-3

## 剣道

女子団体	予選リーグ3勝 (上田・上伊那農業・須坂)	予選1位
決勝トーナメント	対 松本深志 勝ち	
準々決勝	対 松代 負け	ベスト8
女子個人1回戦	原田萌々子(2A)	
	対 上田西 0-1	

## 弓道

女子団体1回戦	20射8中	
2回戦	20射7中	予選敗退
男子個人	大槻 廉(3A)8射5中	予選敗退

## 水泳

男子自由形200m	河野玄翔(2H)	8位
女子自由形50m	岩原純子(3E)	優勝(大会新)
女子自由形100m	岩原純子(3E)	5位
女子自由形200m	柴田恵(2B)	3位
女子平泳ぎ100m	中坊みり(3F)	2位
女子平泳ぎ200m	中坊みり(3F)	2位
女子リレー400m	岩原純子(3E)、玉川陽葉(3G)、中坊みり(3F)、柴田恵(2B)	2位
女子メドレーリレー400m	岩原純子(3E)、玉川陽葉(3G)、中坊みり(3F)、柴田恵(2B)	1位
女子学校対抗		総合成績2位

# 活躍する縣陵生

## 山岳部

曾根原真秀君(2H)、小久保遼平君(2A)、後藤拓馬君(2D)、中村祐太君(2C)、学校対抗で県大会男子準優勝。6月17日から19日まで、富山県立山町周辺で開催された北信越大会に出場しました。

女子(伊藤美優さん(3H)、小澤紬さん(2D)、中山史織さん(2G)、小西柚貴子さん(1B))は県大会で優勝し岡山県真庭市で開催されるインターハイに出場します。



## 卓球部

男子ダブルス岡沢賢也君(3E)、井ノ口雅幸君(1B) 県大会5位  
女子ダブルス中嶋明日香さん(3C)、青木多恵子さん(3G) 県大会3位  
6月18日から19日まで、富山県総合体育センターで開催された北信越大会に出場しました。



## 陸上部

奥原大輝君(3D) 3段跳び 記録13m62cm 県大会5位  
高浪舞さん(3D) やり投げ 記録33m96cm 県大会5位  
森本知隼さん(2F) 走幅跳び 記録5m80cm 県大会優勝  
進藤綾音さん(2G) 棒高跳び 記録2m40cm 県大会4位  
塩原美里さん(1F) 走高跳び 記録1m55cm 県大会5位  
6月17日から19日まで、石川県西部緑地公園陸上競技場において開催された北信越大会に出場しました。

森本知隼さんは6m07cmの記録で2位入賞、岡山市で開催されるインターハイに出場します。



## 水泳部

河野玄翔君(2H)、岩原純子さん(3E)、玉川陽葉さん(3G)、中坊みりさん(3F)、柴田恵さん(2B)は7月22日から24日まで長野市長野運動公園総合市民プール(アクアウイング)で開催される北信越大会に出場します。



## 棋道部

平出純也君(2F)長野県大会囲碁の部で準優勝。7月26日、27日に日本棋院市ヶ谷会館で開催される第40回文部科学大臣杯全国高校囲碁選手権大会に出場します。



### 3年H組 原田 燎君 新極真会長野県大会 一般中重量級の部準優勝

3年H組原田燎君は6月19日に松本市総合体育館で開催された第23回オープン・トーナメント長野県空手選手県大会・一般の部で準優勝に輝きました。原田君は本校空手部、インターナショナル部に所属すると同時に全世界空手道連盟、新極真会道場に通い、東方古傳日本空手道の修行に励んできました。社会人の空手有段者が集う一般の部で上位に入ることは至難の業。高校生が上位に入ったことは快挙です。



# 眩しかった日々

伊藤 道與



世間のニュースがロッキード事件（アメリカの航空機製造大手ロッキード社による航空機の受注をめぐる世界的汚職事件。前首相の田中角栄氏が逮捕されるなど「総理の犯罪」の異名で知られる。）で一色だった昭和51年の春に縣陵の門をくぐった。

入学後に驚かされたのは現在の縣陵生同様に応援練習だった。今のように事前にCDが渡されるわけではないので、歌詞は生徒手帳が、メロディーは口伝が頼り。応援歌が少しでも歌えないとこごとばかりに怒鳴られ前に出されるのは現在と変わりが無い。しかしそれにも増して辛かったのは「腕振り」の練習。背筋を伸ばして一直線の伸ばした腕を太鼓の音に合わせて上下に振り又それに合わせてつま先で体を上下運動させる。歌は歌わずこの腕振りの練習をする。乾い

た太鼓の音がひたすら続く……終わらない……10分、いや20分は続いたろうか……応援練習が終わった後は腰が立たないほどのダメージ、涙が出た。応援団長は体格がよく高下駄を履いた蛮カラの学ラン姿はまさしく巨人だった。氏の甲高い怒鳴り声を今思い出すだけでも恐怖が蘇り身の毛がよだつ。しかし、応援練習を終えた後の4月末に春の北信越高校野球にクラスの仲間と応援に行くと、彼の応援団長が先頭に立ち声も張り裂けんばかりに縣陵の応援をリードした。我々はその姿に感動し応援練習の成果を発揮すべく後に続いて声を張り上げた。

PTAの方の思い出と言えやはり強歩大会であろう。日差しの照りつける中、只管歩を進めて、漸く辿り着いた折り返し地点の鉢盛中学で待っていたのはPTAの方々が用意して下さっていた剥きたての梨だった。乾ききった体にはただただ有り難く無心で口に運んだ。美味しかった……。当時は自分たちの高校生活が先生方や保護者の方々に支えて頂き辛うじて成り立っていることなど考えも及ばなかったが、現在教壇に立つ立場になると自分の高校生活が如何に脳天気にも過ごしていたか思い知らされ冷や汗が出る。

教員として30年以上勤めた印象からすると、縣陵生は幸せであり又恵まれていると感じる。何と言っても憧れ希望して入学してきた者が殆どであろうから。私の高校時代も幸せであった。仲間に恵まれ高校生活を謳歌した。今でも高校時代を思い出すと希望に満ち溢れた感情が脳裏に蘇ってくる。母校の教壇に立つという過分な立場に恵まれた現在であるが、現役縣陵生が高校で過ごす時間を掛け替えのないものとなるようせめてもの手助けが出来れば、と考えている。

応援練習で我々を散々にシゴいた声の甲高い例の応援団長は、現在長野県教育委員会の事務局に勤めておられる。



縣陵 創立65周年 第2グラウンド 竣工  
校舎落成記念誌18ページより転載

## 編集 雑記

- 今度から自宅のパソコンをマメに確認します。池上先生スママセンでした。（金子）
- PTA会報をとおして私の青春時代が蘇ってきました！（坂口）
- 広報委員として自分の高校時代より学校行事に注目する一年になりそうです。（中村）
- 夫婦で初めて縣陵祭に来ました。若い熱気に眩しさを感じました。（山崎）
- 文章書くのが苦手な私がまさかの広報委員に……でも、先生、初めて出会った役員の方々と共にこの一年楽しんでいきたいです。（深澤）

- 毎日空になったお弁当を見て楽しいお昼を過ごしているんだろうなとしあわせに思います。（田中）
- お忙しい中、快く取材を受けて下さった先生、生徒の皆さん、ご協力いただき本当にありがとうございます。（小平）
- 部活動の様子を垣間見ることができ新鮮な気持ちになりました。（丸屋）
- 我が娘は高校に入って、憧れのダンス部へ入部しました。先輩たちのキレイのいいブレイクを見て、「まさにカルチャーチョックだ」と、しばらくの間絶叫。自分も先輩のように、いや先輩より上手になりたいと夢を持ちはじめよう。（矢澤）

- 初めての高校生、始発に間に合わせるためのお弁当作り大変だあ～。（宮下）
- 我が家の愛犬もみけ猫さくらと同じ名前でもとても親しみを感じています。広報委員の任期が終わるまでには一度は会ってみてください。（塚原）
- 128号より金森写真館さんから写真を提供していただいています。長年、本校生徒をとり続けているだけあって、生徒の生き生きとした表情、瞬間を見事にとらえています。この場を借りて感謝申し上げます。夜の会議、片道1時間以上かかる委員もおり頭が下がります。（池上）

# 縣陵百景 ~その①~

## 小体育館・武道場

小体育館は大体育館の東側にあります。1、2学年の学年PTAの会場ですから、訪れたことのある保護者も多いと思います。昭和50年代にそれまでの講堂棟・小体育館が建て替えられ、第2体育館・格技室が設置されました。吹奏楽部、演劇部、卓球部などの活動場所として利用された第2体育館入り口には通称ピロティと呼ばれるスペースがあり、各種行事、集合場所として活用されました。現在の小体育館は場所こそ移動したものの、ピロティを残したいという強い要望もあり、1階屋根下にピロティが設置されました。様々なイベントに利用され、文化祭でも重要な役割を果たしています。

3年前に完成した現在の小体育館・武道場は1階には剣道部、空手道部が使用している道場とトレーニングルーム、2階は卓球部とバドミントン部が使用しているフロアがあります。(曜日によってバスケットボール部、バレエ部も使用しています。)

卓球部顧問の塩原先生にお話を伺うと、小体育館2階には南側と北側に窓がないので風通りが少なく、特

に夏場は太陽熱もこもり、まるで蒸し風呂の中にいるかのようだとのこと。さらにバドミントンは風の影響を受けやすいため、窓は開けないのだとか。かなり厳しい状態です。

そんな中でもどの部も一生懸命に練習して、素晴らしい成績を収めています。今後も益々の活躍を期待したいですね。



バドミントン部



ピロティでのダンス部の練習風景



剣道部・空手部と共有です



トレーニング室での陸上部のみなさん

### ~縣陵祭スナップ~



## 縣陵百景 ~その②~

### もう一つの縣陵祭

# 縣陵祭野球部招待試合

縣陵祭一般公開中に今年も野球部招待試合が行われました。「縣陵野球部の歴史」によると、「野球部招待試合」は前監督の宮下先生が赴任された平成20年から始まりました。校舎で賑やかに行われている縣陵祭とはまた違った縣陵祭が第2グラウンドでも開催されているのです。

招待試合1日目、対桐陽高校（静岡県）戦。応援は少ないかな…とと思っていましたが新聞部も取材に訪れていて、貴重な女子生徒も応援に！試合結果は1敗1分け…当日、同時に行われた夏の大会抽選会で溝口主将がなんと選手宣誓の大役を引き当てた事が報告され、グラウンドは驚きと興奮に包まれました。2日目、対アレセイヤ湘南高校（神奈川県）戦。永原校長先生を始め、生徒、一般160名ほどの方が応援に駆けつけてくれました。試合は1勝1分けでした。

#### 溝口主将のコメント

**Q1:** まもなく選手権大会ですが、今年のチーム目標は？

**主:** 先輩方が2回戦で悔しい思いをしたのでまずは去年を超える事です。

**Q2:** 今年のチームスローガン「常笑軍団」に込めた想いは？

**主:** どんな状況でもみんなで野球を楽しみ、笑顔でプレーするために「常笑軍団」に決めました。

**Q3:** 選手権大会の抽選会の様子はいかがでしたか？

**主:** 出場84チームの中で一番最後に対戦校が決まりました。引き続き選手宣誓の抽選があり、自分の高校名が読まれた瞬間、頭が真っ白になってしまいました！



#### マネージャーにインタビュー！

**北澤理沙さん (3D)**

「相手に押されそうになる場面でも声を出して押し返そうとする選手が頼もしく見えました。」

**丸山菜々香さん (3G)**

「みんなの最高にかっこいい姿をたくさんの人に見てもらえて嬉しかったです。」

**木村夏菜さん (3H)**

「最後まであきらめずに戦い、最終回で同点まで追いついた姿、かっこ良かったです。」

**家崎亜美さん (2D)**

「谷口先生はとても厳しいですが、試合中、選手の活躍を喜ぶ時は誰よりも喜ぶ熱い素敵な監督です。」

**渡邊亜美さん (1B)**

「声を出して笑顔でプレーしているところが本当にかっこ良くて試合を見ていて元気をもらいました！」



今回の招待試合を取材してみて、野球部の生徒も縣陵祭へ参加したいのでは…と感じていましたが、校舎と離れているからこそ、試合をしている姿を縣陵生、保護者および関係者の方々に見ていただく貴重な機会であると感じました。来年もぜひ第2グラウンドへ足を運んで声援を送ってほしいと思います。



## 縣陵祭表彰

- ポスターデザイン…… 杉本萌恵さん(3D)
- パンフレットデザイン… 波多腰万由子さん(3A)
- 校内装飾…………… 最優秀クラス1年E組
- ダンス…………… 最優秀クラス2年A組、3年G組
- ビデオ…………… 最優秀クラス3年B組
- 最優秀垂れ幕………… 空手部



松本県ヶ丘高等学校PTA会報 縣陵 130号

発行日●2016年7月22日 発行●松本県ヶ丘高校PTA 編集●広報委員会 印刷●川越印刷株式会社  
写真提供●有限会社金森写真館 <http://www.nagano-c.ed.jp/agata>

